

1 自己評価及び外部評価結果

1階

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770403566		
法人名	MCP株式会社		
事業所名	グループホームつどい「柳内家」		
所在地	福島県いわき市鹿島町御代字柿境25-1		
自己評価作成日	令和3年4月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和3年5月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が快適で安心してお過ごし頂ける様スタッフ全員が家族の一員になったつもりで業務を行っている。ご家族様との接点も大事にし各入居者様にはホームの理念でもある「ここに来て良かった。貴方に会えてよかった。」と思って頂けるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の能力に応じた支援を基本に、管理者と職員は、家族や知り合いの人との切れ目ない絆を大切に維持できるよう様々な取り組みをしている。事業所として区長始め地域の人々との繋がりを深め、様々な行事に参加し、参加してもらうことで認知症への理解を持って頂けるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念はもちろんのこと、独自の理念を掲げ朝のミーティング等で復唱し全スタッフで共有し実践に繋げている。	事業所理念は、管理者と職員が利用者にとって心地よい空間になることを元に話し合っ作成している。理念がケアに反映されないような時は、いつでも職員同士注意し合える環境作りを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加を心がけて交流の機会を取れるよう取り組んでいる。また事業所が子供ひなんの家に登録しており、ホームの前ではあるが下校の見守りを行っている。	事業所として、近隣にある数件の美容室や飲食店の出前などを利用し、利用者と地域との交流がより深まるよう支援している。以前は区長からの提案で地区の体操教室にも参加していたことがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族に対して認知症の理解や介助方法など相談やアドバイスをやっている。将来的にはオレンジカフェを設立を計画しています。地域に向けて音楽教室も検討しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ前は皆様の協力を得て定期的で開催されてきました。会議では馴染みの関係を築いていく事で、それぞれの立場の意見が飛び交い率直な意見を活用しサービスの質や向上に取り組んでおります。落ち着いた際は再度再開予定しています。	会議では、事業所内の報告を行っている。単独外出があった際や災害時の協力の依頼をしている。特に単独外出の時のためには地域の人にもすぐ分かるように、一人ひとりの個人写真を準備している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上の留意点やサービスの提供などについて、市の担当者に連絡を取り指導を仰いでいます。生活保護者も受け入れ保護係との連携も密に取り合っています。	市町村の長寿支援係や生活保護係と連携を取っている。事業所としての報告や相談をし行政からは指導・助言をもらっている。以前には月に一度、介護相談員が来訪して直接利用者の意見や要望を聞いてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間のスタッフ研修にも取り入れ、スタッフには再認識できるようにしています。また3ヶ月に一度委員会にてチェックシート及び会議を行っている。	チェックシートを用いて利用者の現状を把握し、3カ月に一度会議を開き振り返りと拘束防止に努めている。安全のために現在は玄関に施錠をしているが、利用者が向かった際には必ず一緒に行動し思いや理由を聞いている。施錠をしない方向性を目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様年間の研修・3ヶ月に一度委員会にてチェックシート及び会議を行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画に取り込んで理解を深められる様になっています。金銭管理の面で安心サポートの支援を受けていますので学べる機会にもなっており安心サポートとの関わりで学ぶ機会も沢山あります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	まだ入居の契約締結等に携わっておりませんが、十分な説明で理解、納得して頂けるようにしたい。改訂では内容を納得して頂き同意書を交わす事ができました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族が思ったことなど気兼ねなく言ってもらえるよう、事前に話す機会を設け、伝えてもらえるような関係づくりを心懸けている。	家族等から利用者との面会をしたいとの希望があり、安全を第一にマスク、手の消毒等に配慮しながら、距離を取って話しのできる場所を確保している。感染対策を徹底して家族の方が定期的に来訪して頂ける環境に配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット会議・全体会議を設け意見を出し合っています。司会、書記も全員で行うようにしています。	毎月の会議では他の施設の問題や感染症対策などを話し合い、利用者の日々の検温や消毒などの手順を職員の意見や気づきを取り入れてスムーズに行えるよう努めている。職員の提案は全員で共有して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりのライフスタイルに合った雇用を心がけています。個別評価を実施し、適切な評価を行いやりがいのある職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所研修・地区研修・社内研修の年間計を立てて実行しています。計画前に研修のアンケート調査を実施し意見を重視した研修計画を立てています。「解らないままにしておかない」が全職員のテーマです。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ積極的に参加し同業者との意見交換をしています。MCSネットワークにより、いわき市内のグループホーム協議会の意見交換等をメールでやり取りできるシステムに参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にはまだ携ってはおりませんが、ご本人様が安心して生活を送れる様に入居前より不安な事など払拭できるように傾聴して行きたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「ご入居者様が中心に」、ご家族様の不安や要望など気兼ねなく話せる機会を作り良好な関係構築に努めて行きたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い様々な職種の職員と課題分析を行い、ニーズを見極め適切な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族様の了承を得たうえで、家事活動を職員と一緒にいき共に生活し支えあうもの同士の関係づくりに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に「グループホーム介護は家族と共に」を理解して頂き面会時はホームでの生活状況など報告しご家族様と共に本人を支えて行ける関係づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が培ってきた関係を大切に継続してご支援するようにしています。美容室・医療機関・ボランティア活動・地域交流活動等を関係性を大切に断ち切れない様にご支援を心がけています	利用者の友人等の来訪には、居室や談話室などで感染対策に配慮しながら面会をして頂いている。理美容室などの行きつけの店には、継続的な関係が維持できるように、職員はマスク、消毒に徹底して努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を最も大切にご支援していますので、必要時には職員がさりげなく声をかけ橋渡し役に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去されて契約解除になってしまったご家族へグリーフケアまで心がけています。契約終了後も気軽に相談できる窓口となれるよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユマニテュードケア技法を導入し、スタッフ間で話し合い本人の思いに添ったケアの実践に努めている。	人生の先輩である利用者には、言葉使いなどに配慮して尊敬を持って寄り添うように努めている。言葉が上手く出なかつたりなど思いを伝える事が困難な利用者には、職員は表情などを読み取るなどして思いを把握する事に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前にご本人の生活歴を深くお聞きし、これまでの暮らしぶりの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの個性を大切に状況に合わせてお過ごし頂けますように配慮しています。日内変動等も把握する事で混乱を軽減できる関わりをする様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・職員間での意見交換を密にし様々な意見を取り入れ介護計画を作成しています。	入居時に、本人や家族から生活歴や思いなどを聞き介護計画に反映させている。初めは1ヶ月の介護計画を作成して利用者の様子を見ながらさらに6ヶ月の介護計画を作成している。利用者に変化がある時には随時計画を見直すように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回開催している、ユニット会議時に利用者様の現状の話し合いを行い申し送りノート活用し職員間での情報共有に努め、日々の記録から介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じて臨機応変に対応できるように努めています。通院介助等も利用者様の状況に応じてご家族様の対応を声掛けしています。必要に応じて共に付き添っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流を密にしてい事で、地域行事への参加や近隣の理美容、コンビニ等への外出の機会を設け交流を楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅訪問診療を利用しホームドクターとしての役割を担って頂いていますので、安心できる医療態勢が整えられています。	月に2回、協力医療機関の医師による往診や看護師の来訪により利用者自身が相談や助言を受けている。往診前には一人ひとりの健康状態をかかりつけ医に伝え、得られた結果については職員全体で情報を共有し記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師と密な連携取れ相談助言が気楽に出来る体制が出来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と常々に相談助言が出来る事によって入院に至らないで済む事が多々あります。些細な事でも相談し助言を頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針に伴って、入居前より終末期の在り方を話し合いご入居しております。重度化、終末期に入ってきた時は、医師、看護師、家族、事業所にて今後の対応や意思の確認をしています。ご家族様が後悔が無いように随時変更できる様にご家族の気持ちになって話し合いを繰り返しています。	終末期においては家族との時間を大切にもらうため所内に宿泊し、利用者と共に過ごせるよう配慮している。変化が見られた場合は、主治医・家族・職員との間で迅速に話し合いをし最善の対策をとるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を作成しています。施設内研修にて緊急時の対応を学んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を実施し通報設備・消火器の使用方法・夜間想定訓練を行っています。小名浜地区のグループホーム協議会でも水害時の話し合いを行い、近くの特別養護老人ホーム管理者を迎え、避難場所の提供をして下さる事も話し合いの中で出来た。大雨時等区長さんも来所してくれました。水害時1階の場合垂直避難。	年2回防災訓練を行い、初期消火を始め夜間想定訓練では職員一人で行えることを想定し安全確保に努めている。水害で危険な区域にあるため、地域と特老と連携し避難体制を整えている。災害用備蓄品は、垂直避難場所である2階に蓄えてある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人それぞれの誇りやプライバシーを大切に開かれるようにしています。心に寄り添うケアを推進しています。	プライバシー確保のための勉強会を年1回開催し、日々職員間では利用者への言葉遣いや態度の振り返りと話し合いをしている。入室の時は、必ずノックをし許可を得てからにしている。利用者への言葉かけは、聞きやすく心地よいものになるよう務めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様、一人ひとりの思いを大切に「その人らしさ」の追求に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ入居者様の意向に沿ってその方のペースに合わせ支援し一人一人の思いを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容、身だしなみやおしゃれが出来る様に声掛けや気配りをしている。居室に洗面台と鏡が備え付けているので起床時等に一緒に向い整容を行える様になっています。また化粧を行える方には化粧品を切らさず行って貰えるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自由食を月1回以上導入し、献立作り・買い物・調理・配膳・下膳等と一緒に楽しめる日をお作りしている。	食事の準備から下膳まで利用者へ声掛けをし、一緒に行っている。定期的に利用者の好みを反映させる自由食を設け、満足のいく食事内容にしている。四季の変化を取り入れた行事食では、流しソーメンに人気が集まっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には栄養士が作成したメニューにより業者に依頼して食材を発注している。バランスも考慮しながら一人ひとりの好みに応じて提供出来る事も大切に捉えています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医に定期訪問して頂き診療や歯科検診をして頂き、口腔ケアの大切さを重視しています。ケア後はチェック表に記載し職員間で確信し合える様になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にトイレで排泄する事を目標に置き、定時誘導の声掛けし排泄して頂いています。完全失禁の方は夜間は睡眠重視の為にオムツ着用し日中はリハビリにしています。排泄チェック表に記載し排泄間隔の把握に努めています。	利用者の排泄チェックシートから排泄パターンを把握して、声掛けしたり表情を読み取りながらさり気なくトイレで排泄できるよう誘導している。利用者の見守りには、他の人が間違っに入って来ないように外にいます等、声掛けに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り自然排便を心がけて、水分補給・乳製品の提供、軽運動等を取り入れています。主治医と看護師と連携を取り緩下剤のコントロールもしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調や希望により、曜日や時間をずらすなど柔軟に対応しています。夕方に入りたいと希望されている入居者様に対しては必ず夕方に入れるよう支援しています。	利用者の安全を考慮しながら、午前、午後の希望を聞いて日中の入浴を心掛けている。夕方入浴を希望する利用者には、職員が時間を見て支援している。しょうぶ湯などで季節感を感じてもらおう努めている。最近、事業所では温泉のお湯の宅配をして貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常的に日中は活動出来る機会を作り夜間安眠が出来る様に支援しています。一人ひとりの生活のリズムを大切にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬剤情報を入れ、その都度目的や副作用を確認できる様にしている。状況等を医師看護師に伝えコントロールして頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの望みや特技をいかすことが出来る様にお誘いし、日常生活全般と一緒に楽しむことを基本にご支援しています。利用者様で音楽教室・園芸活動を開催し楽しんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍で外出等は積極的にはできておりませんが、要望があった際は感染対策を徹底し近くのコンビニなどへ外出しております。	利用者には、施設内の畑で散歩や農作業を楽しんでもらうなどの工夫の中で、戸外に出て気分転換になるよう取り組んでいる。利用者の買い物などの希望の時には、職員が感染対策をして一緒に外出して楽しんでもらうようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは基本的には事業所で管理していますが、買い物時に金銭のやり取りが出来る様に見守りながらご支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時からご家族様に了承を得て、要求時にはおつなぎしています。携帯電話を持参しやり取りされている方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に季節ごとに制作物を作成時展示しています。ホールには和室空間もあり冬には炬燵でくつろいでいます。	利用者にとっての適切な温度や湿度の環境に心掛け、快適に過ごせるように努めている。朝顔を植えてグリーンカーテンにして、日差しをさえぎりながら見た目にもさわやかな感じで寛ぎの空間を演出し、利用者的好评を得ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには和室空間やソファを設置しくつろいでいただいています。利用者様同士が居室で交流が持てる様に職員も一緒に入りご支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	居室には出来る限り馴染みの物を持ち込んで頂ける様にしています。必要に応じテレビや冷蔵庫を持ってこられている方もいます。	利用者の居室はベットとタンスが備え付けになっていて、仏壇や好みの家具等は持ち込み出来るようになっている。家族の写真や好みの人形、ぬいぐるみなどを利用者と職員と一緒に飾り付けをして、使い勝手が良い配置になるように取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体は全てバリアフリーであるとともに、各所に手すりを設置しています。床材に衝撃を吸収できるようにクッションを入れています。		